

天体観測ドーム 今月のOPEN日

2日(木)~5日(日)・11日(土)・12日(日)・18日(土)・
19日(日)・22日(水)・23日(木)・25日(土)・26日(日)
日没から午後9時30分まで(晴天時のみ)

星空通信

2023年 11月号

- 3日 木星が衝
- 5日 下弦/土星が留
- 6日 おうし座南流星群が極大
- 13日 新月/おうし座北流星群が極大
- 14日 天王星が衝
- 18日 火星が合/しし座流星群が極大
- 20日 上弦
- 27日 満月

☆用語解説☆

留^{りゅう}…惑星が順行⇔逆行へ変わる時、一時停止して見えること

合^{ごう}…惑星と太陽が同じ方向に来る瞬間

衝^{しょう}…外惑星が太陽とちょうど反対側にくる瞬間

今月の惑星情報

水星

日の入り後の南西の低空に位置。見かけの位置が太陽に近く観察は難しい。

金星

日の出前の南東の空に見えます。明るさは-4.4等~-4.2等。

火星

月初はてんびん座を東に移動、下旬にはさそり座に移動。18日には合となる。太陽とほぼ同じ方向に位置しているため観察は難しい。

木星

おひつじ座を西に移動、3日に衝となり見ごろとなる。真夜中に南から南西の空高く見え、明るさは-2.9等~-2.8等。

土星

月初はみずがめ座を西に移動、5日に留、以後は東向きの動きに転じる。留の頃には星空の中での土星の動きが止まったように見える。宵の南から南西の空に見え、明るさは0.7等~0.9等。

しし座流星群



しし座に放射点を持つ流星群です。

レオニス、レオニードなどと呼ばれています。

今年は21時過ぎに月が沈むので、それ以降、深夜から未明にかけて最も流星が見られやすい時間となります。放射点に近い空では軌跡の短い流星が、離れた空では軌跡の長い流星が見られるのが特徴です。

今年は月の影響をうけず観察条件がよいので天気がよければ、ぜひ観察してみましょう！

